

公立大学法人高知工科大学

平成23年度 業務実績評価書

平成24年8月

高知県公立大学法人評価委員会

目 次

第 1	評価の基本的な考え方	1
第 2	評価の結果	
1	全体評価	3
2	項目別評価	
①	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	
1	教育の質の向上に関する目標を達成するための措置	3
②	同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置	4
③	同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置	5
④	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	5
⑤	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	6
⑥	教育及び研究並びに組織及び運営の状況についての自己点検及び 評価並びに当該状況に係る情報提供に関する目標を達成するための措置	6
⑦	その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置	7
3	組織、業務運営等にかかる改善事項等	7

第1 評価の基本的な考え方

高知県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条第1項及び第2項の規定に基づき、公立大学法人高知工科大学（以下「法人」という。）の平成23年度における業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、法人の当該事業年度における業務の実績及び自己点検・評価を内容とする業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて、「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

1 項目別評価

評価委員会は、次の事項（以下、大項目という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を勘案して、5段階により評価するとともに、その評価理由を明らかにする。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事後の外形的な進捗状況の評価を行う。

〔大項目〕

- ①教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
 - 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置
- ②同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置
- ③同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置
- ④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
- ⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
- ⑥教育及び研究並びに組織及び運営の状況についての自己点検及び評価並びに当該状況に係る情報提供に関する目標を達成するための措置
- ⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置

[5段階]

- 5 : 中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
- 4 : 中期計画の達成に向け順調に進捗している。
- 3 : 中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。
- 2 : 中期計画の達成に向け進捗がやや遅れている。
- 1 : 中期計画の達成に向け進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について、記述式により総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

高知県公立大学法人評価委員会委員

区分	氏名	役職名
委員長	宮田 速雄	株式会社高知新聞社 代表取締役社長
委員	伊野部 重晃	株式会社高知銀行 取締役会長
委員	木村 靖二	立正大学 教授
委員	寺田 覚	公認会計士・税理士
委員	船橋 英夫	国立高知工業高等専門学校 校長

第2 評価の結果

1 全体評価

高知工科大学は、平成9年の開学以来、「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学を目指す」という高い志を掲げ、有為な人材を育成するとともに、優れた教育研究の成果を社会に還元し、高知県民の生活及び文化の向上に寄与してきた。

平成23年度は、公立大学法人となってから3年目であり、前年度に引き続き、理事長、学長のリーダーシップの下、教育、研究及び社会貢献に関する戦略的な取り組みを進めるとともに、業務運営の改善及び効率化についても、法人全体で推進している。

特筆すべき成果としては、学生の学習意欲を増進するための表彰制度や卒業後の進路選択の幅を広げるための教職課程について充実を図るとともに、臨床心理士の常勤化による健康管理体制の強化など学生支援についても充実を図り教育の質を高めていること、また、高知県地震・津波防災研究会を立ち上げ自治体の防災計画の立案に寄与していること、産学官連携の成功事例として表彰されたことなど社会貢献活動の充実が挙げられる。

その他の項目についても、年度計画を十分に実施していると認められ、全体として、中期計画の目標達成が期待されるものである。

2 項目別評価

①教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け 順調に推移している
--	----	---------------------------

○実施状況の概要及び評価

マネジメント学部の学年進行が完成し、予定されていた科目はすべて開講している。また、来年度完成年次を迎える工学系3学群についても順調に推移しており、専門分野だけでなく関連領域を幅広く学ぶことができる教育プログラムを実行している。

各種表彰制度を引き続き実施するとともに、新たに学業、スポーツともに秀でた文武両道の学生を奨励する賞を設け、来年度から授与できるように表彰制度を改定し、学生の学習意欲の増進を図っている。

就職課程について、来年度から、環境理工学群に中学・高校数学免許、マネジメント学部には高校公民免許、中学・高校数学免許、修士課程に専修免許が、それぞれ取得できるよう認可を受けている。

臨床心理士の常勤化を行い、援助が必要な学生に対する健康管理の充実に努めている。

学生の就職支援及びキャリア支援に関して、東京、大阪、高松、高知での大学説明会・企業懇談会の開催やチャーターバスを利用した合同企業説明会への参加、就職支援バスの運行など、きめ細かな支援を行い、全国平均を上回る就職内定率となっている。

学生の受入れに関して、特別推薦入試の継続的な広報により、優秀な学生の確保につなげている。

その他、雨天練習場の整備等による課外活動支援の充実や食堂を借り上げ、寮生の食生活環境の改善も図っており、全体として教育の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

②教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け順調に推移している
2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置		

○実施状況の概要及び評価

学内組織や専門領域の枠を超えた研究交流を行うため、サイエンスカフェを年間6回開催し、学内外の研究者による講演会を実施するなど、「開かれた研究の場」の形成と発展に努めている。

研究成果の実用化を目指した成果が認められ、3名が文部科学大臣表彰を受賞している。

研究本部所属の教員に対し、研究体制強化費を配分することで、研究活動の活性化を図るとともに、独創性の高い研究に対する外部資金獲得を支援するため、研究開発コーディネート室において、毎月1回の相談会及び学内への情報提供を行っている。

磁気共鳴断面撮像システム（fMRI）の導入に伴い、脳コミュニケーションセンター準備室を総合研究所内に設置するとともに、専任教員1名を増員している。また、重点研究室であるナノデバイス研究所とナノ創製センターの統合を行い、研究体制を充実させている。

その他、附属情報図書館の情報提供力の強化やネットワーク環境の整備により、入館者数も前年度から増加しており、全体として研究の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

<p>③教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置</p>	<p>評価</p>	<p>4：中期計画の達成に向け 順調に推移している</p>
---	-----------	-----------------------------------

○実施状況の概要及び評価

新たに地域連携コーディネーターを配置し、地域のニーズや特性の把握に努めるとともに、前年度に引き続き、講演会等を開催している。

附属情報図書館は、引き続き地域住民への開放を行うとともに、香美市立図書館と協定を締結し、連携の基盤を固めている。

高知県地震・津波防災研究会を立ち上げ、高知県の沿岸17市町村の地震津波防災シミュレーションを行い、各自治体の防災計画の策定に寄与している。

共同研究・受託研究等の推進に関し、スラリーアイス製造装置の開発が、産学官連携の成功事例として、日刊工業新聞主催の「モノづくり連携大賞」を受賞するなど成果を挙げている。

県内の小・中・高校への訪問教育や大学見学の受入れ、高大連携事業の実施など、地域の教育機関との連携についても着実に実施しており、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

<p>④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</p>	<p>評価</p>	<p>4：中期計画の達成に向け 順調に推移している</p>
--------------------------------------	-----------	-----------------------------------

○実施状況の概要及び評価

経営と教学の相互に関連する重要事項の調整等を行う総合調整会議を立ち上げている。また、新たに社会連携部を組織し、地域連携機構を強化支援している。

大学院について、マネジメント学部卒業生のキャリアパスとして、起業家コースへの進学ルートを整備している。

教職員の公募について、大学ホームページ以外でも広く周知を行い、優秀な人材確保につなげている。

また、事務職員の能力を高めるための研修について、新規採用者、中堅職員、管理職員など階層別研修と各部門別専門研修を引き続き実施しており、全体として、計画どおり進捗していると評価できる。

⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け順調に推移している
--------------------------	----	-----------------------

○実施状況の概要及び評価

競争的研究資金の獲得を支援するため、募集の紹介などを行う研究開発統括コーディネーターによる個別相談会を毎月実施するなどの体制の強化を行い、科学研究費補助金は前年度を大きく上回る新規採択率となっている。

科研費の採択者に対する獲得資金の半額を支援する制度を引き続き実施している。

業務に関する調査を行い、継続的な見直しを行っている。また、前年度に引き続き定期的な資産の調査及び確実な資産台帳登録を行い、資産の効率的な運用・管理を行っており、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

⑥教育・研究及び組織運営に関する自己点検・評価並びに情報提供に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け順調に推移している
--	----	-----------------------

○実施状況の概要及び評価

年度計画の進捗状況について定期的に確認するとともに、中期計画の進行状況についても、随時、点検・評価を実施している。

大学基準協会の認証評価を受けるための申請書を提出し、申請にあたり、これまでの7年間の自己点検・評価報告書の作成を行っている。

入試情報、得点情報、入札情報についても積極的に公開し、学内情報の積極的な情報開示を行っている。

また、リポジトリ（大学の知的資産の公開サイト）のコンテンツ増加及び研究報告書の登録など、情報発信の内容充実にも努めており、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け順調に推移している
----------------------------	----	-----------------------

○実施状況の概要及び評価

施設整備の利用状況を調査し、統合や空いたスペースの活用など建物の有効活用を行っている。

また、地震防災WGを立ち上げて防災計画の見直しを行い、災害時の避難場所として対応できる環境整備の検討を始めている。

内部監査、業務監査及び会計監査を実施するとともに、部門監査及び外部資金、時間外勤務等についても監査を行い、コンプライアンスの推進を図っている。

その他、環境保全や環境負荷低減に貢献する研究活動や、学生・教職員の健康維持の推進及び学内環境の安全衛生確保に努めており、全体として、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

3 組織、業務運営等に係る改善事項等

特に改善勧告を要する事項はない。